

# 将来構想委員会

第1回 平成23年 2月16日(水)

第2回 平成23年 3月 4日(金)

第3回 平成23年 4月19日(火)

第4回 平成23年 5月17日(火)

第5回 平成23年 8月 8日(月)

第6回 平成23年 9月 5日(月)

第7回 平成23年11月 1日(火)

第8回 平成23年11月25日(金)

## 第1回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年2月16日(水) 17:00～18:00

場 所 岡山理科大学 27号館2階 セミナー室

- 議 題
1. 報告
    - (1) 文部科学省による面接調査について
  
  2. 協議
    - (1) 将来構想委員会要項について
  
    - (2) 岡山オルガノンの継承について
      - ・事業の統合について
      - 昨年9月の素案の検討
      - 遠隔教育事業の継承体制
  
    - (3) その他

次回予定： 3月 日

### 【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学内

岡山オルガノン大学教育連携センター

担当：木村 宏

佐藤 大介

電話：086-256-9771

e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

# 第 1 回将来構想委員会 議事録

日 時：平成 23 年 2 月 16 日（水）17：00～18：00

場 所：岡山理科大学 第 27 号館 2 階 セミナー室

出席者：4 ページ別紙参照

議題案：

## 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

## 2. 文部科学省による面接調査について

木村センター長より、「資料 1・2」に基づき報告がなされた。

- ・「資料 2」は面接調査時の概要説明および想定問答集として、センターで作成した資料である。①から⑮までの事業が岡山オルガノンの全体像をあらわすカテゴリーで、それぞれをどういう形で継承すればよいのかという参考資料としてご一読いただきたい。
- ・調書だけでは実情が理解しがたい部分もあるため、各事業の担当者と対面で報告を受け、各事業への取り組み姿勢や実情を確認する目的で実施されたことがうかがえた。
- ・面接調査について、まずこちらから 25 分程度の概要説明を行い、その後 30 分程度の質疑応答を行った。質問内容としては、大学コンソーシアム岡山との関連について、ライブ型および VOD 型遠隔教育について、外部組織との関係について等が中心であった。
- ・佐藤コーディネーターより、文部科学省から「今後も積極的に情報発信を行い、メディア等で事業の必要性を訴えてほしい」との要求があった旨の報告がなされた。

## 3. 将来構想委員会要項について

佐藤コーディネーターより、「資料 3」に基づき説明がなされ、原案どおり了承された。

- ・前回会議で意見をいただいた箇所の修正を行った。第 2 条の「所掌事務」を「協議事項」に、第 3 条の「（3）その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）」を「2 第 1 項の他に委員会が必要と認めた者（学生を含む）を委員として組織することができる。」に修正した。また、第 8 条に「将来構想委員会の運営は、平成 23 年 9 月末までとするが、必要に応じて延長することができる。」という文言を追記した。

## 4. 岡山オルガノンの継承について

### （1）事業の統合について

### （2）昨年 9 月の素案の検討

### （3）遠隔教育事業の継承体制

木村センター長より、「資料 4」に基づき説明がなされた。

- ・「資料 4」は大学コンソーシアム岡山の代表者会議で提出した資料で、事業継承のために大学コンソーシアム岡山の 3 事業部にオルガノンの事業をそれぞれ集約していく必要があるため、議論のたたき台として作成した。

→大学教育事業部に、遠隔授業（ライブ型・VOD 型）、キャリア指導チームによるキャ

リア形成講座の拡張・実施、各大学 FD・SD 活動（授業参観、i\*See 等を含む）の連携校参加受入を統合してはどうか。

→産学官連携事業部に、エコナイト実施、地域活性化・地域連携活動を統合してはどうか。

→事務局に、遠隔教育を推進するコーディネーターおよび e-ラーニング専門員の 2 名の職員採用が必要ではないか。

大崎大学コンソーシアム岡山運営委員長より、配布資料に基づき説明がなされた。

- ・大学コンソーシアム岡山の現在の年間支出は 730 万円、年間収入は 513 万円なので、年間 200 万円程度の持ち出し状態である。
- ・オルガノン事業の所掌委員会を継続していく必要があるのか検討してほしい。また、継続する場合、双方向コンテンツ委員会と e-Learning 運営委員会を統合すべきか、その他委員会についても同様の議論が必要であろう。
- ・大学コンソーシアム岡山の現会費は「基本料金 8 万円＋学生数による会費 (@100)」で、合計 5,137,000 円の収入がある。資料には、基本料金は 8 万円のままで学生数に掛ける単価 100 円を上げた場合と基本料金を 10 万円に上げた場合のいくつかの料金形態を記載している。
- ・「平成 24 年度大学コンソーシアム岡山への岡山オルガノンの活動の統合（案）」は、大学コンソーシアム岡山の予算配分を再検討し、現在のオルガノン事業の所掌大学に適正な予算を割り当てて、その大学で最低 2 年間は事業を継続していく場合の原案である。
- ・安藤委員より、吉備創生カレッジで雇用している講師への謝礼を減額または無料にすることはできないのかとの意見がなされた。
- ・安藤委員より、学生数ではなく遠隔講義を受講した学生数で計算できないのかとの意見がなされた。
- ・木村委員より、ライブ科目を岡山商科大学へお願いした場合、現在岡山理科大学の資産である多地点接続装置 (MCU) をどうするかといった問題も発生するだろうとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、遠隔講義科目を実施していく場合は連携大学が集まって話し合う場が必要になると考えられるので、現在の委員会も継続して行っていくべきだろうとの意見がなされた。
- ・木村委員より、補助金から VOD 型遠隔授業で使用するパソコンを購入した大学は、特に文部科学省より実績を求められるのではないかと意見がなされた。
- ・木村委員より、メディアへの露出を高めて、本事業の必要性を訴えていくことも必要であるとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、3 月 11 日に大学コンソーシアム岡山の代表者会議があり、そこで学長に対して要点を絞り、3 案程度提示して説明をしたいとの意見がなされた。
- ・木村委員より、美作大学に対してもこの案で説得する必要がある、大学コンソーシアム岡山の代表者会議までに会議を行う必要があるとの意見がなされた。
- ・小山委員より、大学で事前に会費等の話しておきたいが、自大学および学生にこうい

うメリットがあるから会費を上げてほしいとの説明を行いたかったので、そのメリットを具体的に教えてほしいとの意見が出された。

- ・飯田委員より、自大学には、大学コンソーシアム岡山の会費について単位互換のシステムの維持費分上がることになる」と説明を行っているとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、メリットとしては、他大学と一緒にすることができる新しい方式の単位互換ツールができたこと、また地域活性化やまちづくり論、エコナイト等の地方自治体や学生が参画できる新しい取組展開が期待できることなどが上げられる。さらに 15 大学で行う単位互換制度も各大学の宣伝効果があるだろう。また、大学コンソーシアム岡山では今年度就職支援委員会も立ち上げてメディアからの反響も大きいので、あわせて大学コンソーシアム岡山の宣伝も行ってもらいたいとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、高大連携で高校とテレビ会議システムを接続することができたらもっと発展できると考えており、また高校生に直接各大学のアピールができる場となるだろうとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、高校向けにテレビ会議システムを利用できればよいが、高校と接続できなくてもテレビ会議システムが接続できる大会場に高校生を呼んで授業を行うなどの方法でもよいのではとの意見がなされた。
- ・小山委員より、高校生に向けてテレビ会議システムやホームページで各大学のピーアールができる等のメリットがあれば、会費を上げるための説明として大学に話がしやすいとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、高校生向けに VOD コンテンツを作成して DVD に焼いて渡すのも可能ではないかとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、ハードよりもコンテンツがあるかを考えていき、戦略的なコンテンツを作成する必要があるとの意見がなされた。

## 5. その他

- ・次回会議は、平成 23 年 3 月 7 日（月）または 8 日（火）で日程調整を行い、開催することとなった。

## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	佐藤 豊信	欠
岡山県立大学	デザイン学部教授	子野日 俊夫	出
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
岡山理科大学	特担教授	木村 宏	出
	大学事務局長代理	平田 實	欠
	大学教育連携センターコーディネーター	佐藤 大介	出
川崎医科大学	学長補佐	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	副学長	安藤 正人	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	出
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出

第2回 岡山オルガノン「将来構想委員会」  
第37回大学コンソーシアム岡山企画会議  
合同会議

日 時 平成23年3月4日（金） 16:30～17:30

場 所 岡山理科大学 27号館2階 セミナー室

- 議 題
1. 報告  
平成23年度大学改革推進等補助金調書  
3月2日提出済み
  2. 協議
    - (1) 岡山オルガノンの継承について
      - ・岡山オルガノンの想定ランニングコストについて
      - ・経費負担のあり方について
    - (2) その他

次回予定： 4月 日

【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1  
岡山理科大学内  
岡山オルガノン大学教育連携センター  
担当：木村 宏  
佐藤 大介  
電話：086-256-9771  
e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

## 第2回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年3月4日（金）16：30～17：30

場 所：岡山理科大学 第27号館 2階 セミナー室

出席者：4ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### ◆大学コンソーシアム岡山第37回企画会議◆

#### 2. 中国経済産業局「Dream Workstyle Project」について

大崎大学コンソーシアム運営委員長より、「資料2」に基づき説明がなされた。

- ・ 中小企業魅力発信事業「Dream Workstyle Project」（仮称）について概要説明があり、企画委員会です承を得る必要がある。
- ・ 産学官連携事業部で検討して、就職支援委員会で情報を流す形ではどうか。
- ・ 妹尾委員より、個人的には賛成ですとの意見がなされた。
- ・ 木村センター長より、この事業は1年間である。
- ・ 前向きに検討することです承された。

#### 3. その他

大崎大学コンソーシアム運営委員長より、説明がなされ、了承された。

- ・ 3月11日（金）の大学コンソーシアム岡山代表者会議でテレビ会議システムを用いて通信を行う予定である。MCUの不具合報告もあるが、岡山商科大学772教室まで参加できる学長に参加してもらい、各大学に声をかけてテレビ会議システムの配信デモを見ていただく。
- ・ テレビ会議システムを利用し、急遽ライブで大学コンソーシアム岡山運営委員会を開催しようとして検討している。日程調整についてはこれから行う。
- ・ 吉備創生カレッジのパンフレットが出来上がった旨の報告がなされた。

### ◆岡山オルガノン第2回将来構想委員会◆

#### 4. 平成23年度大学改革推進等補助金調書

木村センター長より、「資料1」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・ 平成23年度は「資料1-2」のとおり18項目を計画している。新しい予定としては②将来構想委員会の開催がある。時期についてもおおまかに資料どおりである。イベントは合同開催で行い、回数を減らす方向で検討している。1月に連携評価委員会を行い、最終報告書作成に取りかかりたい。
- ・ 遠隔教育ライブ型前期7科目、後期7科目、VOD型6科目、後期11科目が提供される



予定であり、学生の募集が必要である。履修の締め切りは4月7日(木)としているが、募集期間の延長が必要だと思われるので現在検討している。

- ・「資料1-5～1-10」で今年度の予算を記載している。ストリーミングサーバーの購入を予定していたが、テレビ会議システムおよびMCUとの相性等の問題で断念した。それに伴い、ライブ型遠隔授業ビデオカメラ一式を連携校で購入してもらうため20万円を追加計上している。ライブ型遠隔授業で接続トラブル等が起こり受講できなかった場合に備え、配信大学に授業を撮影してもらい、そこで録画したものを受講できなかった大学に送りDVDで補講していただく予定である。
- ・大崎委員より、テレビ会議システムの不具合以外に、授業が月曜日の場合は振替や代休などで休みになる場合もあり、休講日も違う場合などにDVDを利用しないといけない。
- ・予算としては、人件費が半分ぐらいを占めている。
- ・「資料1-12」に各大学の割り振りを記載しているが、センターおよびオフィスの設置大学の金額が突出しているが、それはほとんどの部分が人件費で、ほぼ各大学に均等に配分している。

## 5. 岡山オルガノンの継承について

木村センター長より、「資料2」に基づき説明がなされ、了承された。

### (1) 岡山オルガノンの想定ランニングコストについて

- ・「資料2」は岡山オルガン事業における連携校のランニングコストを記載している。フレッツ・グループ 3,675 円、多地点接続装置保守費用 6,178 円、学習管理システムサーバーを維持するための費用 12,992 円、オルガン公式ホームページ 188 円、1 大学当たり年額 373,416 円必要になる。これはハードウェアとソフトウェアの関係だけなので、これ以外にこのシステムを維持するための人件費が必要となるだろう。

### (2) 経費負担のあり方について

大崎大学コンソーシアム運営委員長より、「資料2」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・所掌大学で遠隔授業(ライブ・VOD)、単位互換制度、共同FD・SD、キャリア形成教育、地域連携等、取りまとめをすべきではないか。
- ・現在の大学コンソーシアム岡山の各事業部と岡山オルガノンの各種運営委員会の組織割について説明があった。
- ・平成24年度会費(案)を代表者会議に提出するかしないか検討する必要がある。①は従来型。持ち出しがある。②は学生数による会費100円から200円に上げている。③一律50,000円+学生数による会費を前期と後期で徴収する。木村委員の案(373,416円)では年間500万円を超えてしまうので、232,296円の15大学分で5年間予算を出してもらえないかという考え方である。美作大学に関しては前期はいただくが、後期はいただかない等の配慮が必要ではないかと考えている。今回の2-1の資料を提出せずに現在各大学で負担している14万円に関してはこれからも支払っていただくとして、それ以外の金額を代表者会議で提案してみてもどうか。根拠として最終資料として持っていてはどうか。
- ・安藤委員および大槻委員より、副理事長に相談した結果、会費の値上げは困るが数年間

だけの事業費という形でなら負担してもよいとの意見だった。

- ・現在の大学コンソーシアム岡山の赤字運営は厳しいので、必要な会費は徴収する必要がある。後期は事業費、前期は会費として科目立てしてはどうかとの提案がなされた。
- ・木村委員より、現在の運営だけでは繰越金を崩しながらの赤字運営なので、改善しないといけない。飯田委員よりキャリア関係を廃止するため吉備創生カレッジが大きな事業になるが、それに学生数で会費を支払うのはいかなものかとの意見を大学で出されたとの話をもらった。
- ・就職支援委員会で企業にサポーターをつくって資金援助してもらうことも可能性としてあるが、就職支援委員会目的でのみ費用計上してしまうと困るので対応を考えないといけない。
- ・佐藤（豊）委員より、赤字であることを大学コンソーシアム岡山の構成大学に知らせた方がよいとの意見がなされ、大崎委員より、支出630万円ということ欄を追加して資料に記載し③を掲載するとの回答がなされた。
- ・キャリア教育を減らしても就職支援等で学生に見返りがある事業をふやしていくようにしたいとの意見がなされた。
- ・大学コンソーシアム岡山から提示する資料は1-2と1-3、岡山オルガノンから提示する資料は1-4と1-5は出していただくとの意見がなされた。
- ・木村委員より、平成22年度の実績は22年度の実績として報告し、さらに23年度は努力していく旨の説明を学長に対し行う必要があるとの意見がなされた。
- ・ランニングコストの資料は出さずに、22年度の単位互換科目履修実績の表は資料として提出する。
- ・大学コンソーシアム岡山代表者会議で提示する資料の順番は、1-4が1、1-5が2、その後に1-1、1-2、最後に1-3。木村委員より、1-4と1-5は現在数値と違うので、訂正したものを出したものを提示させてもらう。火曜日までに大学コンソーシアム岡山事務局に提出する。

## 出席者一覧

岡山オルガノン 第2回将来構想委員会			
大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	佐藤 豊信	出
岡山県立大学	デザイン学部教授	子野日 俊夫	出
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	特担教授	木村 宏	出
	建築学科教授、情報処理センター長	竹内 渉	出
	大学事務局長代理	平田 實	欠
	大学教育連携センターコーディネーター	佐藤 大介	出
川崎医科大学	学長補佐	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	副学長	安藤 正人	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出
大学コンソーシアム岡山 第37回企画会議			
大学名	所属・職名	氏名	出欠
倉敷芸術科学大学	副学長補佐	妹尾 護	出

### 第3回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

- 日 時 平成23年4月19日（火）17:00～18:00
- 場 所 岡山商科大学 附属図書館6階  
産学官連携センター
- 議 題 1. 報告  
第11回大学コンソーシアム岡山代表者会議について
2. 協議  
(1) 岡山オルガノンの継承について  
・事業の再編成について  
  
・経費負担のあり方について  
  
・事業継承組織について
- (2) その他

次回予定： 5月 日（ ）

#### 【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1  
岡山理科大学内  
岡山オルガノン大学教育連携センター  
担当：木村 宏  
北村 光一  
電話：086-256-9771  
e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

将来構想委員会 名簿

大 学	所 属・職 名	氏 名
岡山大学	副学長	荒 木 勝※
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥 子※
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大 崎 紘 一※
	事務局長	小 笠 原 均
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏※
	大学教育連携副センター長	竹 内 涉
	大学事務局長	石 田 史 郎※
	大学教育連携センター・コーディネーター	北 村 光 一
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大 槻 剛 巳※
川崎医療福祉大学	学長補佐	金 光 義 弘※
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小 山 悦 司
中国学園大学	学長補佐	飯 田 哲 司※
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加 藤 正 春※

※印は大学コンソーシアム岡山運営委員を兼務

## 1. 報告事項

### (1) 第11回大学コンソーシアム岡山代表者会議（別紙参照）

- ・大学コンソーシアム岡山の会費を、収支バランスがとれた額に改定する。
- ・岡山オルガノンの事業継承にあたっては、連携校が事業推進費として期間を限定して一定の額を負担する。この負担額および期間等については将来構想委員会で原案を作成する。
- ・岡山オルガノンから継承する事業については将来構想委員会で検討を行う。

## 2. 協議事項

### (1) 事業の再編成について

- ・遠隔教育事業
  - ライブ型
  - VOD型
- ・共同FD・SD事業
- ・エコナイト事業
- ・社会人基礎力養成に関する事業
- ・各種のシンポジウム
- ・参加校を大学コンソーシアム岡山の会員校への拡張

### (2) 経費負担について

- ・各連携校の負担 =  $\alpha + \beta s$ 
  - $\alpha$  : 固定額
  - $\beta$  : 学生数に比例した額
  - $s$  : 学部学生数

### (3) 事業継承組織について

- ・事務局体制
  - 専従職員の増員（最低でも2名体制）
- ・事業部の再編成
- ・法人化

## 第3回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年4月19日（火）17:00～18:00

場 所：岡山商科大学 附属図書館6階 産学官連携センター

出席者：5 ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 岡山オルガノンの継承について

#### （1）事業の再編成について

#### （2）経費負担のあり方について

#### （3）事業継承組織について

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、了承された。

- ・「資料1-6」は、平成24年度以降、岡山オルガノン事業を大学コンソーシアム岡山に継承するにあたり、オルガノンの事業を大学コンソーシアム岡山の3事業部に振り分けた統合案である。

→一番重要なポイントは、大学教育事業部に遠隔授業（ライブ型・VOD型）の取りまとめを行ってもらうことである。教育の共有化はオルガノンの柱となる事業であるので、必ず継承すべきだと考えている。

→産学官連携事業部には、エコナイト実施、地域活性化・地域連携活動を統合できればと考えている。

→現在、大学コンソーシアム岡山の事務局には事務員が1名いるが、遠隔教育を推進していく職員を1名以上は雇用する必要があると考えられるので、新たに人件費の支出が必要となってくる。

- ・遠隔教育を継続していくために必要な費用負担として、現在の試算では15大学総額（年額）で420万円程度の見込みである。その他として、遠隔教育を推進していく職員の人件費として各大学（年額）で19万円程度の試算をしている。これら費用の内容について、今後この委員会で検討して削減していきたいと考えている。また、「資料1-3」については、遠隔教育実施のため、現在既に各大学でお支払いいただいている経費を記載している。

- ・連携大学で行っている授業をテレビ会議システムを利用して他大学で同時刻に受講できる双方向ライブ型遠隔授業は、昨年度5科目配信して他大学の受講者数は20名であった。VOD型遠隔授業は、授業をビデオで撮影・編集し、学生がインターネット経由で好きな時間に好きな場所で受講できるもので、昨年度後期より配信を開始して178名の受講があった。平成23年度は、ライブ14科目、VOD17科目を配信する予定である。

- ・「資料1-7」は、オルガノン事業を大学コンソーシアム岡山に継承するにあたり、具体

的な費用負担計画を示している。

→現在の大学コンソーシアム岡山の収支は支出が収入を上回っているため、収支バランスがとれた形にするための会費の値上げについては先日の大学コンソーシアム岡山代表者会議で了承された。

→オルガノン事業を継承するため、今後5年間、費用を事業費として徴収する方式は代表者会議で了承された。ただ、その金額および負担方法についてはこの委員会で検討し、9月に開かれる大学コンソーシアム岡山代表者会議に提案したい。

- ・荒木委員より、双方向ライブ型遠隔授業は連携大学すべてに配信しているのかとの質問がなされ、木村センター長より、150万円程度のテレビ会議システムを連携校同一機種で補助金より購入し、連携校すべてに配信しているとの回答がなされた。
- ・荒木委員より、試験の採点等の手当はどうしているのかとの質問がなされ、木村センター長より、各大学の教育の延長として行ってもらっているため担当の先生に費用はお支払いしていないので、各大学で教育業績評価として配慮していただきたいとの回答がなされた。
- ・荒木委員より、岡山大学からの配信は平成23年度1科目で、学生数の比率からいうと少ない気がするがとの質問がなされ、木村センター長より、ライブ型遠隔授業は各大学の授業開始時間が違うなど、受講生を増やしていく上で難しい課題もまだ残っているとの回答がなされた。
- ・荒木委員より、オルガノン事業の内容について質問がなされ、木村センター長より、e-Learning方式による教育共有の推進を根幹に新たな地域貢献を実現することが目的であるが、具体的には「資料2」に記載してあるように、昨年度は18項目の取組を大学教育連携センター（岡山理科大学）および各オフィス（岡山大学・岡山商科大学・中国学園大学）がそれぞれ所掌して行ったとの回答がなされた。
- ・荒木委員より、事業内容等については再検討する余地があるのかとの質問がなされ、木村センター長より、一昨年、昨年度と根幹を築き、最終年度の今年度で事業実施および完成を目指している、今年度で補助金が終了するので、この後どのように継承していくかをこの委員会で検討したいと考えているとの回答がなされた。
- ・荒木委員より、学生を遠隔授業へ参加させるピアール等については各大学に任せているのかとの質問がなされ、木村センター長より、各大学にお任せしているが、各大学の職員には自学の仕事に加えてオルガノンの仕事の負担をお願いしている面もあり、学生への周知もまだ広がっていないのが現状であるとの回答がなされた。
- ・事業継承を行うにあたり、具体的に検討が必要なものは下記3項目が考えられる。
  - 事業の再編成について、オルガノンの事業をどういう形で統合していくかが問題である。事業の柱である遠隔教育は最低でも5年間は継続すべきだと考えている。オルガノン事業に参加していない大学コンソーシアム岡山会員校への拡張も検討が必要である。新しく遠隔授業に参加することになれば、自費でテレビ会議システム等の購入をしなければならぬという問題が発生する。
  - 経費負担について、事業費についても会費と同様に「固定額（α）＋学生数に比例し



た額（ $\beta$ ）×学部学生数」の形で設定すべきだと考えており、必要総額をもとに「 $\alpha$ 」と「 $\beta$ 」の額を詳細に検討する必要がある。

→事業継承組織について、テレビ会議システムを利用したライブ型遠隔授業の所管大学は岡山商科大学であるが、多地点接続装置は岡山理科大学の備品として購入している等のため、大学コンソーシアム岡山の事務局だけではなくそれぞれのシステムを導入している大学の負担が必要になると考えられる。VODについても、岡山理科大学で開発したシステムを導入して使用しているが、現在コンテンツ作成は大学教育連携センターで行っており、その部分の負担も検討が必要である。そのため遠隔教育について最低1名の専従職員の増員が必要と考える。

- ・金光委員より、オルガノン事業について当大学で議論になった点は、遠隔教育の必要性が各大学で違うと思われるので、それについて連携校で共通認識があるのかを確かめるべきではないかということと、文部科学省より年間取得単位数の上限を言われているが、国家試験を受ける学生が圧倒的に多い当大学では遠隔教育の受講生が出にくく、その辺も各大学によって大きな差異があると思うので検討が必要なのではということ。また、放送大学とオルガノンの遠隔教育との有益性の検討についても、今後オルガノンの事業を継承していく上において議論の対象にしていただきたいとの意見がなされた。木村センター長より、遠隔教育の内容については、岡山大学オフィスが所掌で協議、検討を進めているが、3年という限られた期間で実施しているため、こういう授業をという質的な面よりもまず授業の提供ありきで量的な面から開始した。ただ、今後は質的な面の検討も行っていきたい。年間取得単位数について、岡山理科大学では遠隔教育の単位について、上限単位数の縛りの外側に設定しているとの回答がなされた。
- ・9月に開催される大学コンソーシアム岡山の代表者会議に、この委員会の結論を提案する予定である。
- ・荒木委員より、24年度の授業はとの質問があり、木村センター長より、24年度も追加で配信する授業の予定が決定しているとの回答がなされた。
- ・大崎委員より、岡山商科大学オフィスがライブ型遠隔授業の取りまとめをしているのは経営学特殊講義を各大学へ配信してほしいとの要望があったためである。昨年度の他大学の受講者数は20名であるが、現在他大学へ行って受講する単位互換の受講者数は100名いかない程度であり、1年間でここまで人数を伸ばしたと考えてもよいのでは。ただ授業時間等の問題もあり、他大学でも受講してもらえるようなプログラムの検討が必要であると考え。また、非常勤として他大学へ授業に行っている先生にテレビ会議システムを利用して授業をしてもらえるよう検討してみてもよいのでは。今後新しい利用方法や質的な問題の解決を図り、今後のステップにつなげていきたいとの意見がなされた。
- ・小山委員より、本年度配信予定の倉敷まちづくり基礎論と実践論の受講者数が現在まだ少ないため、実際に授業が始まる連休明けまで追加受付を実施するので、ぜひ学生にピーアールしていただきたいとの意見がなされた。
- ・荒木委員より、大学コンソーシアム岡山の原点について再度検討いただきたい。実質的に岡山の大学が力を合わせるということが一体どういうことなのかを確認いただきたい。

岡山大学では学長が変更して「学都」ということを提唱しているが、地域全体が学問を愛することができるようなプロジェクトとは一体何なのかを再度検討してほしいとの意見がなされた。

- ・金光委員より、多くの委員が出席できるような委員会の開催時間帯を検討していただきたいとの意見がなされた。
- ・小山委員より、テレビ会議システムを利用した開催も検討してほしいとの意見がなされた。

### 3. その他

- ・次回会議は、平成 23 年 5 月 17 日（火）前後で日程調整を行い、開催することとなった。

## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	出
	学務部学務企画課総務・企画グループ主査	野曾 康史	出
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
	事務局次長	竹内 央	代理
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	欠

## 第4回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年5月17日（火） 17：00～18：30

場 所 岡山理科大学 9号館3階 第1会議室

議 題

### 1. 協議

#### （1）岡山オルガノンの継承について

- ・事業の再編成について
- ・経費負担のあり方について
- ・事業継承組織について

#### （2）その他

次回予定：            月            日（    ）

### 【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学内

岡山オルガノン大学教育連携センター

電話：086-256-9771

e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

将来構想委員会参加者名簿

大 学	所 属・職 名	氏 名	出欠
岡山大学	副学長	荒 木 勝	欠
	学務部学務企画課総務・企画グループ主査	野 曾 康 史	代理
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥 子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大 崎 紘 一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹 内 涉	出
	大学事務局長	石 田 史 郎	欠
	大学教育連携センター・コーディネーター	北 村 光 一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大 槻 剛 巳	欠
川崎医療福祉大学	学長補佐	金 光 義 弘	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小 山 悦 司	出
中国学園大学	学長補佐	飯 田 哲 司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加 藤 正 春	欠

## 1. 協議事項

### (1) 事業の再編成について

#### 1) 遠隔教育事業

##### ①ライブ型遠隔教育

導入機器：

HDテレビ会議システム (SONY, PCS-XG80+オーディオミキサー)

1,184千円 全大学(H21～H22)

多地点接続サーバ (SONY, PCS-VCS20)

9,555千円 岡山理科大学 (H22)

ギガビットVPNルータ (YAMAHA, RTX1200)

124千円 全大学

録画用カメラ

200千円 全大学

表示装置・液晶プロジェクタ

204～1,068千円 10大学のみ

保守費：

多地点接続サーバ

1,059千円/年

通信システム：

Bフレッツ回線 (IP-VPN仕様) ベーシック

97千円/年 全大学

フレッツグループ

44千円/年 全大学

事業内容：

H22年前期 2科目配信 (岡山商大, 川崎医科大)

H22年後期 3科目配信 (岡山商大, 倉敷芸科大×2)

H23年前期 7科目配信 (岡山大, 岡山商大, 川崎医科大, 川崎医福大, 倉敷芸科大×2, くらしき作陽大)

H23年後期 7科目配信 (岡山県立大, 岡山商大, 岡山理大, 環太平洋大, 倉敷芸科大, 山陽学園大, 中国学園大)

各大学の担当内容：

岡山商大 コーディネータ1名, 事務補佐員1名

ライブ型授業の配信に関わる取りまとめ

配信大学との調整

担当講師との連絡調整

履修要項, シラバス, 履修申込書等の原案作成

TV会議運用時のシステム監視

岡山理科大 コーディネータ1名, e-Learning専門職員1名

ネットワーク環境の管理 (NTTとの連絡窓口)

MCUの管理

配信大学との連絡調整

岡山大学 コーディネータ1名

履修申込書類の作成

配信科目の取りまとめ

受講生向けPRちらしの作成・配布

②VOD型遠隔教育

導入機器・システム：

コンテンツ配信サーバ (IBM, SystemX 3250)	189千円	岡山理科大 (三洋コンピュータ)
撮影機材 (カメラ, 三脚, ライト等)	1,280千円	岡山理科大
受講用パソコン 全315セット	37,800千円	10大学
システム維持費：		
サーバ保守費	192千円/年	
オルガノン専用線 (100MB BE)	420千円/年	
オルガノンLMSサーバサポート	240千円/年	
オルガノンシステムサポート	720千円/年	
Momotaroライセンス利用料	120千円/年	
サーバソフト維持費	168千円/年	計 1,860千円/年

事業内容：

H22年後期	3科目配信 (岡山理科大, 川崎医福大, 吉備国際大)
H23年前期	6科目配信 (岡山県立大, 岡山理科大×3, 暮らしき作陽大×2)
H23年後期	11科目配信 (岡山商大, 岡山理科大×4, 川崎医福大, 吉備国際大, 山陽学園大, 就実大×2, 中国学園大)
H24年度	5科目程度追加予定

各大学の担当内容：

岡山理科大学 e-Learning専門職員1名, 事務補佐員1名

VODコンテンツ撮影・編集・確認

スタジオ撮影 (岡山理科大, 吉備国際大)	15件
ライブ授業撮影 (就実大, 倉敷芸科大, 岡山理科大, 山陽学園大)	4件
加計サイバーキャンパスからの借用	6件

講義提供教員との打合せ

配信大学の教務担当者との打合せ (追試験の手配など)

LMSの管理・運用

受講学生に対するヘルプデスク

各大学への出張説明会開催

岡山大学

遠隔教育受講生の実情把握

シラバスの収集・整理

履修申込書の作成・配布

配信科目の検討 (委員会)

受講生向けPRちらし・ポスターの作成・配布

- 2) 共同FD・SD事業
- 3) エコナイト事業
- 4) 地域活性化事業
- 5) 社会人基礎力養成に関する事業
- 6) 各種のシンポジウム

7) その他

(2) 事業継承組織について

1) 事務局体制

専従職員の増員：

現有職員 1名

遠隔教育担当職員 1名

人件費：

3,000千円程度増

2) 事業部の再編成

3) 法人化

(3) 経費負担について

・H24～H26年までの第1期分の事業費について検討し、それ以降はH26年度まで検討を行う。

・各連携校の負担 =  $\alpha + \beta s$

$\alpha$  : 固定額

$\beta$  : 学生数に比例した額

$s$  : 学部学生数

・総額6,000千円の負担案（システム運営費 3,000千円＋人件費 3,000千円）

固定額  $\alpha = 170,000$ 円 15大学合計 = 2,550千円

学生数比例分  $\beta = 100$ 円／人 15大学合計 = 3,500千円（在籍数 35,000名）

各大学の配分金額（試算表）

大学名	学部学生数	固定額	学生数比例費	合計
岡山大学	10,341	170,000	1,034,100	1,204,100
岡山県立大学	1,641	170,000	164,100	334,100
岡山学院大	219	170,000	21,900	191,900
岡山商科大学	1,650	170,000	165,000	335,000
岡山理科大学	5,014	170,000	501,400	671,400
川崎医科大学	755	170,000	75,500	245,500
川崎医療福祉大学	3,645	170,000	364,500	534,500
環太平洋大学	1,319	170,000	131,900	301,900
吉備国際大学	2,208	170,000	220,800	390,800
倉敷芸術科学大学	1,711	170,000	171,100	341,100
くらしき作陽大学	1,224	170,000	122,400	292,400
山陽学園大学	475	170,000	47,500	217,500
就実大学	1,908	170,000	190,800	360,800
中国学園大学	494	170,000	49,400	219,400
ノートルダム清心女子大学	2,352	170,000	235,200	405,200
合計	34,956	2,550,000	3,495,600	6,045,600



## 第4回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年5月17日（火）17：00～18：30

場 所：岡山理科大学 第9号館 3階 第1会議室

出席者：4ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 岡山オルガノンの継承について

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、了承された。

#### （1）事業の再編成について

##### ①ライブ型遠隔教育

- ・ライブ型遠隔教育を継続するに当たり、現在は補助金から支払っている多地点接続サーバの保守費用105万9,000円（年額）の負担が必要となる。
- ・平成22年度前期および後期の他大学受講学生数は20名であった。
- ・野曾委員より、現在の担当職員は継承後どうなるのかとの質問があり、木村センター長より、現在の担当職員を継続雇用される場合は各大学で費用負担いただくことになるが難しいと思われるので、担当作業については新規に大学コンソーシアム岡山の専従職員として遠隔授業専門スタッフを採用して対応していきたいとの回答がなされた。
- ・野曾委員より、岡山大学のオフィスが廃止された場合の対応はどの質問があり、木村センター長より、購入した機材等の管理および運用については各大学の責任でお願いしたいとの回答がなされた。
- ・野曾委員より、岡山大学オフィスが担当している履修申込書類の作成、配信科目の取りまとめは、継承後は大学コンソーシアム岡山で行うのかとの質問があり、大崎委員より、現在、単位互換の業務については大学コンソーシアム岡山の大学教育事業部で担当しているが、その事務に関しては岡山大学の学務部を中心に取り組んでいただいております、今後も引き続き統括していただきたいと思いますとの回答がなされた。
- ・野曾委員より、受講生向けPRちらしの作成・配布は大学コンソーシアム岡山で行うのかとの質問があり、大崎委員より、現在も大学コンソーシアム岡山で単位互換のポスター等は毎年作成しており、今後はオルガノン科目も追加して3種類の単位互換という形で作成することになるだろうとの回答がなされた。
- ・木村センター長より、ライブ科目を受講する場合は機材操作、配信授業の録画、学生の出席確認、補講の対応などの作業が必要になってくるが、各大学でその対応をどういう形で行うのかを早急に検討していただきたいとの意見がなされた。

##### ②VOD型遠隔教育

- ・現在、システム維持費として186万円程度（年額）を補助金から支出しているが、補助

金終了後は再度業者と交渉を行い、費用削減する予定である。

- ・昨年度後期の受講者数は 178 件、今年度前期は 184 件である。今年度前期の受講者数が少ないのは、くらしき作陽大学から配信されている 2 科目に 50 名の定員制限があり、当大学の教務で定員に満たないうちに募集を打ち切ってしまったという経緯があったことも影響していると考えており、今後その対応についても検討が必要である。解析学 I の岡山県立大学受講生 66 名については、自学の授業の復習用教材として利用している。
- ・遠隔教育の継承について、ライブ型と VOD 型遠隔科目の両方を担当する専従職員の採用が必要だと考えている。
- ・VOD 型教育は他大学の学生のために実施しているものであるが、授業を担当している先生方にはオルガノンの方から費用負担しておらずボランティアでご協力いただき、大変感謝している。
- ・野曾委員より、ライブ授業を撮影して VOD で他大学の学生に見てもらうのは難しいのかとの質問があり、木村センター長より、今年度後期に配信する岡山学については、ライブ授業を撮影して来年度以降に VOD 型科目として配信する予定であるとの回答がなされた。
- ・金光委員より、平成 22 年度に配信された VOD コンテンツはどうなるのかとの質問があり、木村センター長より、コンテンツについては 3 年ないし 4 年は使用するとの回答がなされた。
- ・小山委員より、後期へ向けて学生のニーズ等の受講調査を実施し、その調査を踏まえて広報活動を行った方がよいのではとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、岡山商科大学では他大学の科目は 10 単位しかとれず専門にも教養にも入らないため、学生の受講が少ない。各大学も同じような問題をお持ちだと思うので、過去 8 年間の実績があり受講者数が多い岡山理科大学の制度等について、双方向コンテンツ委員会でお話したいとの意見がなされた。
- ・小山委員より、特に私学は教養教育の教員が減少傾向にあるので、上手に単位互換を利用できれば人件費等も含めてメリットがあると思うとの発言がなされた。
- ・大崎委員より、ライブについては非常勤として他大学へ授業に行っている先生にテレビ会議システムを利用して授業をしてもらえればメリットがあると思うとの発言がなされた。

## (2) 事業継承組織について

- ・遠隔教育担当職員（少なくとも 1 名）を採用し、その人件費として年額 300 万円を継承案として提案しているので検討いただきたい。

## (3) 経費負担のあり方について

- ・事業を今後 5 年間継続する予定であったが、岡山大学より 3 年間で検討してみてもとの提案をいただき、その方向で原案を作成した。
- ・遠隔教育を継続していくためのシステム運営費として 300 万円、職員人件費として 300 万円、計 600 万円を会費とは別に事業推進費として試算し、各大学の経費負担については「固定額（17 万円）＋学生数比例費（学部学生数×@100 円）」という金額で原案を

作成したので、この原案をもとに精査いただき、現実的な数値に修正していきたいと考えている。

- ・金光委員より、学部学生数が少ない大学の代表者のご意見を聞くべきではとの意見がなされ、木村センター長より、委員会または大学訪問等で情報をお知らせしてご意見をいただく必要があるだろうとの回答がなされた。
- ・竹内委員より、学部学生数が減った場合のことを考えると、この程度の固定額を計上しておく方がよいのではとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、私学は国からコンソーシアム支援経費をいただける場合があるので、その費用を今後どのように利用していくか検討する必要があるとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、吉備創生カレッジの先生方には報酬をお支払いしているが、遠隔授業を担当している先生方にも何らかの形で対価をお支払いする方向で検討を行いたいとの意見がなされた。
- ・木村センター長より、今回遠隔授業を担当いただいた先生方を集めて慰労会を開き、その際に問題点等もお聞きしようと考えているとの意見がなされた。

### 3. その他

- ・次回会議は、6月中旬から末までの間で検討しているが、決まり次第センターよりメールにて連絡する。

## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務部学務企画課総務・企画グループ主査	野曾 康史	代理
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	出
	大学事務局長	石田 史郎	欠
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	欠

## 第5回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年8月8日（月）15：00～16：30

場 所 岡山商科大学 附属図書館6階 産学官多目的室

### 議題

- （1）継承組織について
- （2）経費負担について
- （3）その他

次回予定： 月 日（ ）

### 【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学内

岡山オルガノン大学教育連携センター

電話：086-256-9771

e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

将来構想委員会参加者名簿

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	代理	増間 芳雄	出
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	欠
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	欠
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出

## 第5回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年8月8日（月）15：00～16：30

場 所：岡山商科大学 附属図書館6階 産学官連携センター

出席者：2ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 協議事項

#### （1）岡山オルガノンの継承組織編成

木村センター長より、資料に基づき説明がなされた。

- ・大学コンソーシアム岡山に岡山オルガノンの事業を継承する場合、現状のままで継承するならば、会長校および事務局をどこの連携校が担当するのか未定であり、今後の展開が難しい。また、NPOとして大学コンソーシアム岡山を法人化する考え方もあるが、手続き面や事務局構成に関して多くの問題がある。そのため、現状に即した組織継承方式に基づき、とりあえず提案を行う。
- ・e-Learning 運営委員会では、VOD型コンテンツの著作権についても検討してきた。この著作権の取り扱いについても、このまま大学コンソーシアム岡山が任意団体であると今後の手続きが煩雑になる可能性がある。このため、他のコンソーシアムが取り組んできた内容や方法についても検討する必要がある。いずれにしても現行の岡山オルガノン事業を今後は大学コンソーシアム岡山が継承していかなければならない。NPO法人化は今後時間をかけて検討すべき課題である。

#### （2）現行組織を維持しながら事業継承を行う場合（案）

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、特に問題なく、了承された。

#### （3）経費負担について

木村センター長より、資料に基づき説明がなされた。

- ・大崎委員より、岡山オルガノンの継承に伴う事業維持費で、ライブ型遠隔教育関連経費としてフレッツグループの1ヵ月 3,675 円、MCU保守費1ヵ月 6,178 円、およびフレッツサービスの1ヵ月 8,085 円の合計1ヵ月 17,938 円については、まとめは大学コンソーシアム岡山で行うが、経費については各大学で負担していただきたい。これに対して木村センター長より、MCU保守費1ヵ月 6,178 円については岡山理科大学が契約者となっているので、岡山理科大学への払い込みが必要となるとの回答がなされた。
- ・大槻委員より、大崎委員の言われることは理解できる。結局、事業を継承するために、経費を負担するか、場合によっては事業の軽減化、例えば、経費がかかり、そのわりに費用の負担が多いライブ型遠隔授業を取りやめて、VOD型遠隔授業の充実化を図ることも考えられる。これに対して、木村センター長より、岡山オルガノン事業が終了して

からも最低3カ年は遠隔授業を実施する必要がある。文部科学省より、今後、どのように取り組まれているかの問い合わせがあっても、遠隔授業を止めてしまえば、本事業の継続性について説明がつかなくなるとの発言があった。

- ・木村センター長より、VOD型遠隔教育関連経費について説明がなされ、了解された。
- ・木村センター長より、経費負担について説明がなされた。これに対して、大崎委員より、各大学から固定費の徴収を止め、どの大学も必要な経費はそれぞれの大学で負担すべきである。すなわち、平等論でいきたい。大学コンソーシアム岡山の事業推進費としては、人件費と新規の継承事業経費として年間400万円を連携校が負担することにはどうかとの提案が出され、この方針で、次回の代表者会議に諮ることが了承された。すなわち、固定費と人件費を含む事業推進経費とは別々に考える必要があるとの提案がなされ、この修正案が了承された。
- ・木村センター長より、次回の将来構想委員会で再度、経費負担、とくに事業推進経費の負担方法について、代表者会議の後に検討したいとの提案が出された。

#### (4) その他

木村センター長より、資料「南大阪地域大学コンソーシアム」に基づき説明がなされた。

- ・このコンソーシアムはNPO法人として活動しているので、今後の岡山オルガノンの継承組織としての大学コンソーシアム岡山のモデルとして参考にしていきたい。



## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	代理	増間 芳雄	出
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	欠
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	欠
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出



## 第6回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年9月5日（月） 16：00～17：00

場 所 岡山理科大学 第11号館 5階 インターネット端末室1

### 議題

- (1) 経費負担について
- (2) その他

### 【事務局】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学内

岡山オルガノン大学教育連携センター

電話：086-256-9771

e-mail：h-kimura@okayama-organon.jp

## 将来構想委員会 参加者

---

### ■岡山理科大学会場 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒 木 勝	欠
	学務企画課課長	増 間 芳 雄	代理
	学務企画課	野 曾 康 史	随行
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹 内 涉	欠
	大学事務局長	石 田 史 郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大 槻 剛 巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金 光 義 弘	出
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加 藤 正 春	出

### ■テレビ会議 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥 子	出
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大 崎 紘 一	出
	事務局長	小笠原 均	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小 山 悦 司	出
中国学園大学	学長補佐	飯 田 哲 司	出

## 将来構想委員会 会場

---

### ■会場一覧

大学名	会 場
岡山理科大学	11号館 5階 インターネット端末室 1
岡山県立大学	学部共通棟（北） 2階 8203教室
岡山商科大学	7号館 7階 772教室
倉敷芸術科学大学	2号 2階 非常勤講師控室
中国学園大学	12号館 4階 M-406教室

## 第6回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年9月5日（月）16：00～17：00

場 所：岡山理科大学 第11号館 5階 インターネット端末室1

出席者：4ページ別紙参照

議題案：

### 1. 経費負担について

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、了承された。

- ・事業推進費の負担方式について、イ) 一律負担（15万円）および学生数比例で負担、ロ) 全額を学生数比例で負担 の2案を提案しているが、この負担方式についてご議論いただきたい。
- ・「資料1-7・1-8」はオルガノン継承後の大学コンソーシアム岡山の事業計画一覧と予算及び担当委員会（案）で、9月6日（火）に開催される大学コンソーシアム岡山の代表者会議に提出する内容の骨子である。
- ・岡山大学の増間委員代理より、経費負担について15大学の遠隔教育を共通に支援する専門要員の人件費がその大半であるため、経費の一部は学生数に関係なく15大学が共通に一律負担すべきと考えるとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、大学教育事業部に計上されている340万円について、人件費以外に消耗品費等もこの金額の中に組み入れることはできないのかとの質問がなされ、木村センター長より、人件費336万円の根拠について、現在オルガノンで雇用している遠隔教育専門スタッフの金額を参考に記載しているが、来年度からは新たに大学コンソーシアム岡山で契約することになるため給与の減額もあるとは考えている。その金額については、大学コンソーシアム岡山の事業推進について詳細を決定する中で議論いただきたいとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、事業費400万円の中に地域貢献費用として60万円計上しているが、本年度のエコナイトおよび日ようび子ども大学等がかかった経費が90万円程度であったことは代表者会議で説明する。当学としてはイの案でもロの案でも問題はないので、この委員会の意見を大学コンソーシアム岡山の代表者会議で提案してよいと思うとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、事業費は遠隔教育全体にかかる人件費が中心のため全大学が共通して負担する部分があるイの案がよいと思うが、一律負担分15万円の説明がもう少し必要ではないかとの意見がなされた。
- ・加藤委員より、この案でいくと当学の負担額はイでもロでも余り変わりはないが、負担方法としては共通経費が含まれるイの方がよいのではないかと思うとの意見がなされた。
- ・石田委員より、イでもロでも構わない、当学の学長にも相談済みであるとの意見がなされた。

- ・小山委員より、事業費 400 万円のうち大半が人件費であるため、イの案の方がよいと考えるとの意見がなされた。
- ・小山委員より、大学コンソーシアム岡山の事務局の業務内容について具体的に教えてほしいとの発言があり、大崎委員より、大学コンソーシアム岡山の事務局には 1 名の専任事務職員を雇用しているが、現在実施している事業の大半をその職員が担当している。またボランティア活動等、外部から依頼される事業も増加傾向にあるとの回答がなされた。大学コンソーシアム岡山の事務局より、具体的な業務内容として、大学教育事業部については岡山大学を中心に単位互換の取りまとめを、社会人教育事業部については吉備創生カレッジの取りまとめを、産学官連携事業部については中国学園大学を中心にキャリア教育の取りまとめを、その他経理処理、会議準備、外部との対応等を行っているとの補足説明がなされた。
- ・飯田委員より、大学コンソーシアム岡山の設立当初から一律負担金という考え方で進めてきたのでイの案でよいと思うが、一律負担分 15 万円の根拠説明がもう少し必要ではないかとの意見がなされた。
- ・桂委員より、まだ学長に相談していないが、当学としてはイの案で検討しているとの意見がなされた。
- ・金光委員より、当学園として負担方法はイでもロでもどちらでも構わないが、事業内容の整理と費用対効果の検証を行っていただきたいとの意見がなされた。
- ・木村センター長より、補助期間 3 年間で事業評価を出すのは非常に難しい問題であると思っている。オルガノンの事業継承について向こう 3 年間は合意されているので、その 3 年間で具体的な効果等の評価ができればと考えているとの意見がなされた。
- ・木村センター長より、委員の意見はイの案が多かったので、将来構想委員会の意見としてイの方式で大学コンソーシアム岡山の代表者会議に提案してよろしいかとの発言がなされ、了承された。
- ・大崎委員より、委員から指摘があった 4 点、オルガノン事業の内容整理、費用対効果の検証、一律負担分 15 万円の根拠、利用できない大学に対する負担金の減額措置について、代表者会議でも同様の意見が予想されるので、そのあたりの説明をお願いしたいとの発言がなされた。
- ・木村センター長より、オルガノン事業の内容整理および理念の継承については大学コンソーシアム岡山とさらに検討していくとともに、オルガノンの代表者委員会でも検討して了承を得なければならないと考えている。費用対効果については連携評価委員会でも大きなテーマになると思うが、その重要な指標の一つである遠隔教育の受講者数について今年度後期の履修状況の結果を待っている段階である。受講学生が増えない要因の一つである年間取得単位数の上限問題等は、今後も議論を続けていきたい。一律負担分 15 万円の根拠について、受講者数が現状で余り多くないことを考慮して学生数比例分 50 円に設定し、残りを 15 大学で負担すると 15 万円という金額になったため、その金額を原案として提案させていただいた。以上の点については将来構想委員会でも課題として残されていることを代表者会議で説明するとの発言がなされた。

- ・飯田委員より、大学教育事業部の中で単位互換の実施とキャリア教育を合わせて予算 30 万円という理解でいいのかとの質問があり、大崎委員より、単位互換の実施とキャリア教育を合わせて 30 万円計上しているが、事業費 340 万円の中に人件費と消耗品費を組み入れ、大学教育事業部として 380 万円で計上できればと考えているとの回答がなされた。
- ・金光委員より、費用対効果について、何をもって効果とするかが難しい問題だろう。遠隔教育の受講者数も一つの評価基準にはなと思うが、各大学にとっては重要な問題は自学への効果だと思う。自学への明確な効果を提示できないと、経営者としても費用を負担しづらいのではとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、実際にライブ授業を他大学へ配信したが、新しい形の授業形態だと感じた。学生の受講者数も短期的には重要な指標だが、県内で新たな教育システムを構築するきっかけとして教育者側の視点も入れて活用するのも面白い試みになると思うとの意見がなされた。

出席者一覧：

■岡山理科大学会場

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務企画課課長	増間 芳雄	代理
	学務企画課	野曾 康史	随行
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	出
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出

■テレビ会議

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	出
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	出



## 第7回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年11月1日（火）16:00～17:30

場 所 岡山理科大学 9号館3階第1会議室

### 議題

1. 報告  
大学コンソーシアム岡山 企画会議の報告
2. 岡山オルガノンの継承について
  - ・ 予算関係
  - ・ 組織関係
  - ・ 継承に関するスケジュール
  - ・ その他

添付資料： 大学コンソーシアム岡山 企画会議配布資料の一部

### 今後の予定：

- 11月15日（火）岡山オルガノン コーディネータ会議
- 11月15日（火）第43回 大学コンソーシアム岡山 企画会議
- 11月25日（金）第8回 岡山オルガノン 将来構想委員会（最終、予定）
- 12月 3日（土）岡山オルガノン事業報告会（補助期間内の最終報告会）
- 12月 6日（火）大学コンソーシアム岡山 運営委員会
- 12月 6日（火）岡山オルガノン 代表者委員会（商大、予定）
- 1月20日（金）大学コンソーシアム岡山 臨時代表者会議
- 1月20日（金）岡山オルガノン連携評価委員会
- 1月31日（火）岡山オルガノン H23年度予算執行締切
- 3月 大学コンソーシアム岡山 代表者会議（予定）



将来構想委員会参加者名簿

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務企画課課長	増間 芳雄	代理
	学務企画課	野曾 康史	随行
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	欠
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	欠
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	出
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	欠

## 第7回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年11月1日（火）16：00～17：30

場 所：岡山理科大学 第9号館 3階 第1会議室

出席者：3ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 大学コンソーシアム岡山企画会議の報告

木村センター長より、資料に基づき報告がなされた。

- ・9月6日（火）に開催された大学コンソーシアム岡山の代表者会議でオルガノンの事業継承について議題を提案したが保留となり、現在大学コンソーシアム岡山の企画会議でさらに精査な検討を行っている段階である。
- ・大学コンソーシアム岡山の代表者会議で、オルガノンの事業継承をした場合に大学コンソーシアム岡山の設立主旨に沿った事業展開ができるのかについてももう少し厳密に説明してもらいたいとの要望が出されたため、企画会議で、オルガノンの事業を継承するとすれば設立趣旨に「岡山県内の高等教育機関の連携の推進」という目的を追加すべきではないかとの提案がなされ了承された。
- ・大学コンソーシアム岡山にオルガノンの「単位互換の実施」、「FD・SD」、「学生支援・交流」、「地域貢献」の事業を継承すること、それぞれの事業部に必要な関連委員会を設置し、委員会を中心に事業展開していくことが企画会議で了承された。
- ・平成24年度のオルガノンの単位互換実施について、時期的に大学コンソーシアム岡山に継承するのは困難なため、オルガノンの岡山大学オフィスが引き続き中心となっていくことが了承された。
- ・大崎委員より、大学コンソーシアム岡山の私立学校振興・共済事業団補助金が本年度からなくなるため、吉備創生カレッジの授業単価を下げて予算を縮小する予定であるとの報告がなされた。

### 3. 岡山オルガノンの継承について

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、了承された。

- ・TV会議システムの関連費用は各大学215,256円（年額）であるが、その金額とは別に、特に配信大学はビデオ会議システムの保守契約をお願いしたい。VOD型教育システムの関連費用は各大学130,188円（年額）である。これらの金額については、システム維持管理経費のため、大学コンソーシアム岡山の事業費には計上しない。
- ・大学コンソーシアム岡山の事業費として、遠隔教育担当職員1名の採用3,360,000円、エコナイト事業経費100,000円、地域活性化イベント実施経費300,000円、遠隔教育関係の広報費140,000円、FD・SD活動等の広報費等100,000円、合わせて約400万円を計

上している。遠隔教育担当職員の職務について、現在オルガノンでは3名ないし4名の職員で行っており、事業継承後の担当職務は厳選しなければならない。

- ・飯田委員より、中国学園大学オフィスは学生交流事業を継承していくことになっているが、少ない予算の中で社会人・学生交流シンポジウム、高大連携キャリア講座は継続実施できると思うが、幾らかの経費は必要になってくるだろうとの意見がなされ、木村センター長より、社会人と学生の交流事業として新しい展開を検討していきたいとの意見がなされた。
- ・大崎委員より、VOD型教育システムにかかる経費を払わなくてもよいかという質問が連携校より出された場合、どう対応するのか。フレッツ・グループとフレッツサービスは一緒にした方が理解しやすいのではないか。人件費について、大学コンソーシアム岡山の人件費と同等にしたほうがよいのではないか。社会人・学生交流事業を組み込むとすれば、大学教育事業部の中に独立した項目を追加して分かりやすくしたほうがよいだろうとの意見がなされた。
- ・センターおよびオフィスについて、補助期間終了後も対外的に即応できる体制を設けてもらいたい。
- ・継承に関するスケジュールとして、遠隔方式による単位互換について平成24年3月まではセンターおよびオフィスが協力して実施する。大学コンソーシアム岡山に継承する際には、各大学の教務とどのように仕事を分担していくか検討しておく必要があると考える。
- ・美作大学と特別会員（短大等）については、VOD型教育への参加を求めていきたいと考えている。

#### 4. その他

木村センター長より、資料に基づき説明がなされ、了承された。

- ・次回会議について、11月25日（金）に最終の委員会を開催させてもらいたい。詳細については後日メールにて連絡する。
- ・12月6日（火）に、岡山オルガノン代表者委員会、その後に大学コンソーシアム岡山運営委員会が開催される予定である。
- ・大崎委員より、11月15日に大学コンソーシアム岡山の企画会議が開催されるので、それまでに予算等詳細を検討しておく必要があるとの意見がなされた。
- ・増間代理より、岡山大学では岡山大学オフィスを継続させるため、学内の合意を得るための準備をしている段階であるとの報告がなされた。
- ・小山委員より、対文部科学省との関係で連携校がすべきことは何かとの質問がなされ、木村センター長より、経理関係の書類および購入備品の管理をお願いしたい、また担当者が変更しても対応できる体制を作っておいてもらいたいとの回答がなされた。

## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務企画課課長	増間 芳雄	代理
	学務企画課	野曾 康史	随行
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	欠
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	出
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	欠
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	出
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	出
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	欠



## 第8回 岡山オルガノン「将来構想委員会」

日 時 平成23年11月25日（金） 16：30～18：00

場 所 岡山商科大学 附属図書館 6階 「産学官連携センター」

### 議 題

1. 報告
  - ・ 大学コンソーシアム岡山 第43回企画会議
2. 岡山オルガノンの継承について
  - ・ 組織関係
  - ・ 予算関係
  - ・ その他

添付資料： 大学コンソーシアム岡山 企画会議配布資料の一部

### 今後の予定

- 11月25日（金） 第44回 大学コンソーシアム岡山 企画会議
- 12月 3日（土） 岡山オルガノン事業報告会（理大）
- 12月 6日（火） 大学コンソーシアム岡山 運営委員会
- 12月 6日（火） 岡山オルガノン 代表者委員会（商大）
- 1月20日（金） 大学コンソーシアム岡山 臨時代表者会議
- 1月20日（金） 岡山オルガノン連携評価委員会（理大）
- 3月 大学コンソーシアム岡山 代表者会議（予定）

将来構想委員会参加者名簿

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務企画課課長	増間 芳雄	代理
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	欠
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	欠
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
	地域連携センター	寺田 悟	代理
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出

## 第8回将来構想委員会 議事録（案）

日 時：平成23年11月25日（金）16：30～18：00

場 所：岡山商科大学 附属図書館 6階 「産学官連携センター」

出席者：4ページ別紙参照

議題案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 大学コンソーシアム岡山企画会議の報告

木村センター長より、「資料1」に基づき報告がなされた。

- ・「資料1」は11月15日に開催された大学コンソーシアム岡山第43回企画会議資料を一部抜粋したものである。岡山オルガノン事業継承については、今回の委員会で最終案を作成し、大学コンソーシアム岡山に提案する。
- ・「資料1-5」について、大学コンソーシアム岡山の特別会員である山陽学園短期大学と津山工業高等専門学校は、対面型の単位互換を平成23年度より試行実施しており、24年度以降も試行期間延長を行う予定であるが、その際オルガノンの単位互換科目をどのように取り扱うかについては、大学コンソーシアム岡山で平成24年度に検討を行う方向である。
- ・「資料1-12」のオルガノン継承事業費として、連携15大学から「一律@15万円+学生数による事業費（@50円）」、総額402万3,000円を負担いただく予定である。

### 3. 岡山オルガノンの継承について

木村センター長より、「資料2」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・平成24年度以降の組織として、国費を使用して「オルガノンの構築」事業を展開してきたこと、美作大学の関係もあり、オルガノンという名称は何らかの形で残すべきだと考えている。
- ・大学コンソーシアム岡山は、各事業部に委員会を設置し、委員会で活動の企画、実施を行っていく方向で検討している。オルガノンの学士課程教育連携委員会および共同FD・SD委員会を単位互換委員会へ、オルガノンのe-Learning運営委員会および双方向コンテンツ委員会を対面・遠隔教育委員会へ、オルガノンの地域活性化委員会を地域貢献委員会へ統合しようと考えている。単位互換委員会は単位互換科目およびFD・SD事業継承の検討・実施等を、対面・遠隔教育委員会は単位互換科目の技術的な問題を含めた検討・実施等を、地域貢献委員会は地域活性化事業継承の検討・実施等を行っていく委員会にしようと考えている。
- ・オルガノンの事業を継承するに当たっての事業費として402万3,000円を計上している。遠隔教育担当者の人件費を大学コンソーシアム岡山の事務員と同額に訂正した。また、VODコンテンツを作成するための補助員の人件費を16万8,000円追加計上している。

FD・SD 活動についてはシンポジウム継続のための経費として 18 万円を、地域活性化活動については日ようび子ども大学の経費として 25 万 9,200 円、エコナイトに 10 万円、学生交流事業についてはシンポジウム継続のための経費として 6 万円を計上している。ただし、学生交流事業については来年度に特化したもので、平成 25 年度以降の予算計上は不明である。また、オルガノン HP の更新料および WEB サーバ等使用料として 3 万 3,800 円を計上している。

- ・遠隔教育維持のための経費として、各大学で年額 34 万 5,444 円の負担が必要になる（平成 23 年度支払い実績に準拠）。フレッツ・グループについて、現在は倉敷芸術科学大学より 2 拠点分の金額をお支払いいただいているが、来年度から 1 拠点にしたいとの意見があり、金額が多少変更される可能性がある。VOD の来年度の契約については、まだ業者と折衝を進めていないが、来年度の見通しをある程度立ててから大学コンソーシアム岡山に引き継ぎしようと考えている。
- ・継承についての詳細なスケジュールは、次期会長校が決定していないので、資料に記載していない。
- ・大崎委員より、学生交流事業については社会人基礎力養成という名称で大学教育事業関係に組み込むように修正してほしいとの意見がなされ、了承された。
- ・大槻委員より、単位互換委員会と対面・遠隔教育委員会の区別が分かりにくいのではないかと意見がなされた。
- ・大崎委員より、単位互換委員会は各大学の教務関係の方を中心に制度等の実務関係についての検討を、対面・遠隔教育委員会は教員を中心にコンテンツ等の運営面の検討を行ってほしいと考えているとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、事務处理的には大学コンソーシアム岡山とオルガノンを一元化できればよいが、会費と事業費を別々に徴収しているため、そのあたりを明確にして委員会の名称および所掌内容を検討した方がよいのではないかと意見がなされた。
- ・木村センター長より、私の考え方では、対面・遠隔教育委員会はシステムの新しい用途、例えば吉備創生カレッジの授業を撮影して VOD 科目にする等の検討を行う委員会と考えているとの意見がなされ、大崎委員より、その検討を行うのは社会人教育委員会ではないか、大学教育事業部は大学間の教育をベースにその科目をどうするか検討する委員会と考えているとの意見がなされた。
- ・大槻委員より、各委員長が集まって相互に関わる内容を検討する場があるのかとの質問がなされ、大崎委員より、企画会議には各委員会の正・副委員長に参加いただく予定であるとの回答がなされた。
- ・大崎委員より、平成 24 年度後期からはオルガノンと大学コンソーシアム岡山の単位互換科目の提供依頼および学生募集に関する事務処理等の統合化を図る必要があるとの意見がなされ、了承された。
- ・大崎委員より、事業費が余った場合はどうするのかとの質問がなされ、木村センター長より、翌年度の事業費減額で対応するとの意見がなされ、了承された。
- ・大崎委員より、本日開催した双方向コンテンツ委員会で来年度以降のテレビ会議システ



ムの活用方法について、講義だけではなく他の事業にも利用していきたいとの提案をした。

- 木村センター長より、VOD については岡山県立大学から提供いただいた解析学という科目で自学の授業の補助教材として使用した経験があり、そのような利用方法も普及させていきたいとの意見がなされた。
- 金光委員より、VOD 科目の有効期限は何年ぐらいかとの質問があり、木村センター長より、3 年程度と思われるが、一部授業内容の修正等を行ったりすることで担当講師の許可が得られればそれより長い期間使用できるとの回答がなされた。

## 出席者一覧

大学名	所属・職名	氏名	出欠
岡山大学	副学長	荒木 勝	欠
	学務企画課課長	増間 芳雄	代理
岡山県立大学	全学教育研究機構長	桂 宥子	欠
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大崎 紘一	出
	事務局長	小笠原 均	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏	出
	大学教育連携副センター長	竹内 渉	欠
	大学事務局長	石田 史郎	欠
	大学教育連携センターコーディネーター	北村 光一	出
川崎医科大学	学長補佐・衛生学教授	大槻 剛巳	出
川崎医療福祉大学	学長補佐	金光 義弘	出
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小山 悦司	欠
中国学園大学	学長補佐	飯田 哲司	欠
	地域連携センター	寺田 悟	代理
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加藤 正春	出